

◆ CEATEC 2020 ONLINE、6月30日より 出展申込受付を開始

一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会の3団体で構成するCEATEC実施協議会は、2020年10月20日(火)～23日(金)に開催予定の「CEATEC 2020 ONLINE (シーテック 2020 オンライン)」について、開催概要を公開し、6月30日より出展申込受付を開始することを発表しました。

CEATEC - Toward Society 5.0 with the New Normal (ニューノーマル社会と共に歩むCEATEC)」をスローガンに開催するCEATEC 2020 ONLINEは、コンセプトとして「New Normal Society 5.0の実現と共に新たな社会への提案」、Digital Transformation (オンライン開催ならではのDX実現の提案)、Anytime & Anywhere (いつでも、どこからでも参加できる新たな枠組みの提案)」の3つを掲げ、オンライン上に構築する会場(WEBサイト)において、出展者が集結する展示エリアならびに主催者によるコンファレンスの映像配信を展開し、出展者と参加者がこれからのニューノーマル社会を考え共創していくための場として開催する。

展示エリア

出展者のページには展示内容の紹介動画や資料などを掲載するとともに、リアルタイムチャット機能によって出展者と来場者がコミュニケーションをとることが可能です。展示エリアは下記の3つで構成する。

■ニューノーマルテーマエリア

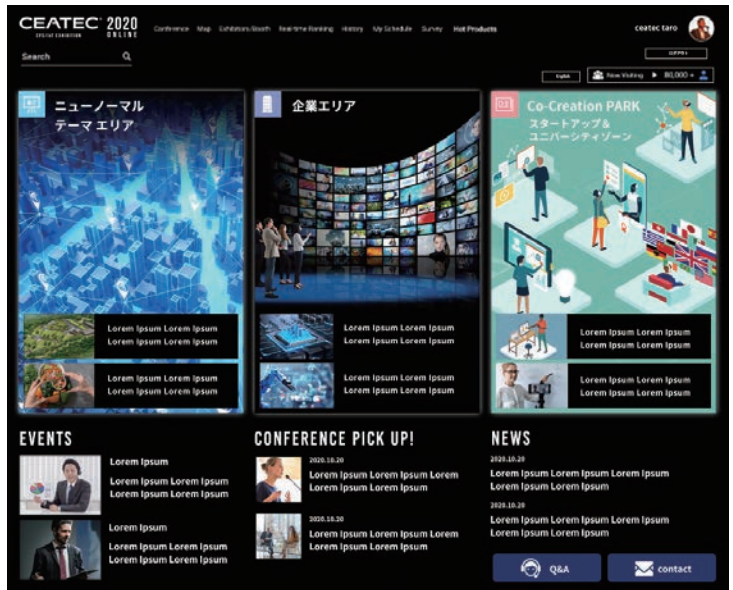
新型コロナウイルス感染症がもたらした「新たな暮らし(ニューノーマル)」をキーワードに、持続的かつ豊かな暮らしを実現するための新たなソリューションやテクノロジー、サービスを紹介する。「ニューノーマルソリューションズ」「ニューノーマル社会を支える要素技術・デバイス」「デジタルまちづくり」の3つのカテゴリーのもと、テーマごとに複数の出展者でページを構成し、展開する予定。

■企業エリア

ニューノーマル、さらにその先のSociety 5.0の実現を見据えた製品やソリューション、さらにはテクノロジーなどを企業ごとに紹介する。IT・エレクトロニクスをはじめ、モビリティ、工作機械、運輸、住宅、建設、金融、観光、エネルギー、サービスなどのテクノロジーを活用するあらゆる産業/業種を対象とし、企業のビジョンを発信する総合的なものから、1つの事業に特化した専門的な内容まで、大小さまざまな企業が参画する予定で、多種多様で特色のある展示が披露される。

■Co-Creation PARK スタートアップ&ユニバーシティゾーン

設立9年以下(2011年10月以降に設立)のスタートアップ企業や研究成果の社会実装を目指す大学・教育機関を出展対象とし、出展者ごとにページ構成し、それぞれの製品やソリューションを紹介する。次世代のフロントランナーとして期待される国内外の企業



CEATEC2020 ONLINE エントランスイメージ

や大学・教育機関が参画する予定。

コンファレンス

国内外のキーノートのライブ配信をはじめ、ニューノーマルをテーマとしたコンファレンスや連携企画などの準備を進めています。コンファレンスのプログラムは9月頃に公開予定。

■AI/SUM & TRAN/SUM」と連携【初】

AI(人工知能)の活用ならびに交通・移動手段とITとの融合をテーマとする「AI/SUM & TRAN/SUM」(主催:日本経済新聞社)と連携し、「CEATEC with AI/SUM & TRAN/SUM」として今回初めて相互でコンファレンスを実施します。登壇者ならびに内容については、決定次第改めて発表する。

CEATEC実施協議会は6月30日(火)よりCEATEC 2020 ONLINEの出展申込受付を開始し、ニューノーマル社会を共に歩み、テクノロジーの活用をリードする、あらゆる産業・業種におけるフロントランナー企業/団体の出展を幅広く募集する。詳細については、下記の出展募集サイトを参照のこと。



CEATEC 2020 ONLINE 出展募集サイト:

<https://www.ceatec.com/ja/application/>

名称:CEATEC 2020 ONLINE (シーテック 2020 オンライン)

会期:2020年10月20日(火)～23日(金)

※会期以降はオンデマンドとして12月31日まで公開

会場:オンライン (<https://www.ceatec.com/>)

開催テーマ:つながる社会、共創する未来

スローガン:CEATEC-Toward Society 5.0 with the New Normal

(ニューノーマル社会と共に歩むCEATEC)

主催:CEATEC実施協議会

一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)

一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)

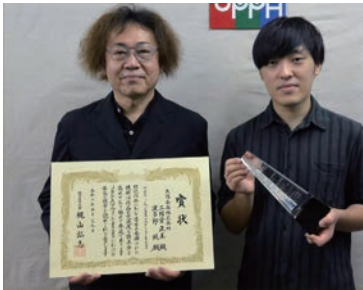
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)

◆一般社団法人日本ポストプロダクション協会： JPPA AWARDS2020 贈賞式を JPPA 事務局 にて開催

一般社団法人日本ポストプロダクション協会は、5月に予定していた JPPA AWARDS2020 贈賞式開催を中止とし、web 上で既に受賞者発表を行ったが、6月19日、経済産業大臣賞と映像技術グランプリ / 音響技術グランプリ「3 賞限定の贈賞式」を JPPA 事務局にて開催した。当日は、各賞毎に時間帯を分け、JPPA 三上信一会長から各受賞者に賞状とトロフィーが授与された。3 密を避けるため、立ち合いは最少人数 / 写真撮影時以外はマスク着用とし安全面に配慮した開催となった。

JPPA では、贈賞式で受賞者を披露できなかった代わりとして、JPPA AWARDS 2020 を記念した「特別冊子」を刊行する予定。(6 月末発刊→7 月上旬関係各所に配布予定)

■経済産業大臣賞



・受賞者：太陽企画株式会社 二階堂正美氏、波多野純氏

・作品名：「ごん / GON, THE LITTLE FOX」

・「映像技術部門 / カテゴリー＝オンライン / ジャンル＝ドラマ / 映画」で優秀賞受賞

二階堂氏、波多野氏

■映像技術部門 グランプリ

・受賞者：株式会社 IMAGICA Lab. 木村祥明氏、中野裕介氏



・作品名：「ゲキ×シネ『修羅天魔～髑髏城の七人 Season 極』」

・「映像技術部門 / カテゴリー＝オンライン / ジャンル＝ドラマ / 映画」で優秀賞受賞

三上会長、木村氏、中野氏

■音響技術部門 グランプリ



・受賞者：ソニー PCL 株式会社 長谷川有里氏、阿部大輔氏

・作品名：ALBION スキコン 45 周年スペシャルムービー「ずっとそばにいます」

・「音響技術部門 / カテゴリー＝サウンドデザイン / ジャンル＝広告」で優秀賞受賞

三上会長、阿部氏、長谷川氏

◆NHK：有機膜を積層した 3 層カラー撮像素子を開発 ～高精細な小型単板カラーカメラの実現に向けて～

□ NHK は、高精細な小型単板カラーカメラの実現を目指し、光を電気信号に変換する有機膜を用いた撮像素子の研究開発を進めている。今回、有機膜を積層したカラー撮像素子を開発した。

□ 一般的な小型単板カラーカメラ用の撮像素子は、青・緑・赤のフィルターを取り付けた画素をモザイク状に並べて配置している。この方式では、複数の画素からの色情報を集めてカラー映像を生成するため、素子が本来持つ解像度や光の利用効率が低くなるのが課題だった。

□ そこで今回、青色のみ、緑色のみを光を検出する有機膜を、赤色の光を検出する CMOS¹⁾ イメージセンサーの上に垂直方向に重ねて配置した、3 層構造のカラー撮像素子を開発した。

□ 入射した光は、最初に青色の成分のみが 1 層目の有機膜で検出され、緑色と赤色の成分が透過する。次に緑色の成分のみが 2 層目の有機膜で、最後に赤色の成分が CMOS イメージセンサーで検出されます。有機膜には透明な薄膜トランジスターを組み合わせると、各層から出力された信号を足し合わせると、カラー映像が出力できる。

□ 1 つの画素で青・緑・赤すべての色情報が得られる構造により、光をより効率的に利用しながら、高精細な撮像素子が実現できる。今後も、撮像素子の画素微細化や多画素化などに取り組み、高精細な小型単板カラーカメラの早期実現に向けて研究開発を加速していく。

※青色用有機膜の開発は日本化学株式会社と共同で進めました。

1) Complementary Metal-Oxide-Semiconductor：相補型金属酸化膜半導体

Inter BEE 2020、オンラインでの開催を決定

一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA：会長 石塚 茂樹 / ソニー株式会社 代表執行役 副会長) は、2020 年 11 月 18 日 (水)～20 日 (金) にて幕張メッセで開催予定であった、メディア総合イベント「Inter BEE 2020 (インタービー 2020)」の通常開催を中止し、オンラインにて開催することを決定しました。詳細については、7 月中旬に発表する予定です。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大防止対策の必要性の長期化が見込まれる中、一方で、経済活動との両立や新たな社会や暮らしへの取り組みも求められています。

Inter BEE 2020 は、メディアとエンターテインメントに関わる多様な関係者が集うイベントとして、関連業界が置かれている現在の困難な状況を打開し、これからのあり方や取り組みをいち早く内外に示すという役割を果たすべく、幕張メッセでの通常開催を目指し、準備を進めてまいりました。しかしながら、現状を鑑みたと、来場者、出展者ならびに Inter BEE に関わるすべての皆様の安全を最優先に考慮した結果、本年は通常開催を見送り、オンラインでの開催とする決断に至りました。

Inter BEE 2020 は、年間を通じて情報提供を行う INTER BEE ONLINE (公式 Web サイト) を活用し、幅広いユーザーのために映像、音響、放送、通信の業界関係者が最新情報を発信するとともに、アフターコロナ時代のニューノーマル社会における、メディアとエンターテインメント関連産業の取り組みや試みを総合的に発信するオンラインイベントとして実施します。オンライン開催における出展募集要領については、7 月中旬に発表する予定です。

■本件に関する企業 / 団体からの問い合わせ先

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

公式 WEB サイトお問い合わせフォーム (www.inter-bee.com)

E-mail : contact2020@inter-bee.com 電話 : 03-6212-5231

◆アストロデザイン：新しい8Kプロジェクタ INSIGHT Laser 37000 8K を発売した。

37,000ルーメンの高輝度を実現した新しい8Kプロジェクタ INSIGHT Laser 37000 8K を発売 !!



アストロデザイン株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：鈴木 茂昭、以下アストロデザイン）は、37,000ルーメンの高輝度に対応した新しい8Kプロジェクタ INSIGHT Laser 37000 8K を発売する。

2017年、アストロデザイン、（台湾）Delta Electronics 社及び同グループ傘下の（英）Digital Projection 社の3社は、共同プロジェクトによる世界初のDLP 8Kプロジェクタ INSIGHT Laser 8K Imaging by ASTRO を発表した。

2020年に発売する新しいINSIGHT Laser 37000 8Kは、長寿命でオペレーションの容易な従来機種の良いままに、更に37,000ルーメンの高輝度を実現した。

特長

- ・カラーシステムに3チップDLP®方式 Blue Laser + RED Laserを採用
- ・1台で8K (7680 × 4320) 解像度に対応
- ・3 × 1.38インチ DarkChip (tm) DMD (tm) チップ採用
- ・37,000 ISOルーメン

8K 解像度

- ・卓越した8K (7680 × 4320) のディスプレイ解像度
- ・高速画像処理による階調表現とコントラストの向上

色調整を容易に、正確に

- ・4つの設定から色調整方法を選択可能
- ・カラープリセット (HDTV、Peak) 7軸カラー補正 (手動調整) 色温度 (3200、5400、6500、7500、9300、Native) ゲイン/リフト (RGB各色ごとに設定)

HDR 対応 (HLG/PQ)

RED LASER

- ・REDレーザーを新たに追加し、色再現性を向上
- ・より再現性が求められるシーンに、現実に近い映像投射が可能
- ・長寿命レーザー光源により20,000時間以上の安定稼働

最小限のメンテナンス

- ・水冷却システムにより安定した運転を実現
- ・安心の3年保証 (もしくは20,000時間のいずれか早い方)

製品情報

<https://www.astrodesign.co.jp/product/insight-laser-37000-8k>

製品名 INSIGHT Laser 37000 8K

発売日 2020年6月 (発売中)

価格 オープン価格



◆アストロデザイン：世界初！8K映像技術を搭載した新型計測車両「GT 8K」の開発に協力した

朝日航洋株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：尾暮敏範、以下朝日航洋）とアストロデザイン株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：鈴木茂昭、以下アストロデザイン）は、道路・鉄道・空港などの各インフラ分野におけるメンテナンス性能の高度化と効率化のため、8K映像技術を搭載した新型計測車両「GT 8K」を共同開発した。

「GT 8K」は、朝日航洋が長年培ってきた移動計測車両（以下、MMS）による計測技術とアストロデザインが得意とする超高精細の8K映像技術を融合させた世界で初めてのMMSになります。

新型計測車両「GT 8K」によるサービスは7月頃の開始を予定しております。

◆採用製品

- ・8K 120Hzポータブルカメラ AB4815
- ・Tamazone Workstation AW 8800



◆キャノン：「キャノンサステナビリティレポート 2020」を公開 ～共生の実現に向けた統合報告書～

キャノンは、さまざまなステークホルダーに向けて「キャノンサステナビリティレポート 2020 ～共生の実現に向けた統合報告書～」を公開した。業績・財務状況、ESG 関連をはじめとした、統合報告に求められる幅広い情報を掲載するとともに、マテリアリティ（重要課題）に沿ったキャノンの活動とSDGs（持続可能な開発目標）の関わりや、企業理念である「共生」の実現をめざした取り組み事例などを紹介している。



◆サステナビリティレポート：

<https://global.canon/ja/csr/report/>



CANON SUSTAINABILITY REPORT 2020

【注目ポイント】キャノンの価値創造プロセスとSDGsとの関係を明確化



キャノンの活動とSDGsの関わり

キャノンは、時代の変化、社会の変化をとらえ、企業理念や企業DNAをベースに、日々新たな「価値創造」に取り組んでいる。この価値創造プロセスを通じ

て、「経済・環境・社会」そして、「SDGs 達成」に貢献していること、キャノンの個々の活動がどのようにSDGsと関わっているかについて、図やマッピングでわかりやすく整理した。プロセスの検討に当たっては、グローバルに活躍する欧州のESG 専門家と何度も議論を行うなど、幅広い意見を反映させた。

【注目ポイント】「共生」の実現をめざした価値創造の事例

【事例1】製品ライフサイクルを通じた環境価値の創造

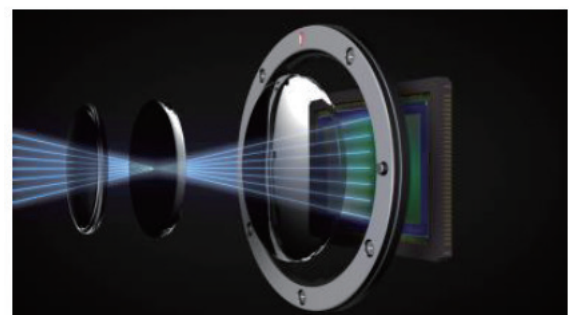
「豊かさの向上」「環境負荷の低減」の両立を「環境価値」ととらえ、優れた製品の創出と同時に、製品ライフサイクルの各段階で環境負荷を減らすさまざまな工夫や取り組みを推進している。本レポートではその実績を実例とともに紹介している。



製品1台当たりのライフサイクルCO2

【事例2】事業とともに歩む持続的成長に向けた知的財産活動

知的財産は事業の発展を支えるためのものという考えのもと、10年後、20年後の姿を描き、事業の未来に向けて、特許の出願・権利化、ライセンス活動、標準化の推進、知的財産の業界をリードする活動を行っている。



独自技術を守る強固な特許ポートフォリオを構築している「EOS R システム」

キャノン株式会社 広報部

◆ブラックマジックデザイン：世界的な配信イベント「SHEIN Together」、Blackmagic Design で配信



Blackmagic Design は、Pocket Cinema Camera6K および URSA Mini Pro 4.6K G2 カメラ、Blackmagic Web Presenter などが、新型コロナウイルス感染症チャリティの基金集めのために行われた、音楽と美容・ファッションを融合したバーチャルイベント「SHEIN Together」の配信に使用されたことを発表した。同イベントは、SHEIN アプリで独占的に 160 万人の視聴者に向けて配信され、ケイティ・ペリー、リル・ナズ・X、リタ・オラ、ドージャ・キャット (Doja Cat) によるパフォーマンスに加え、ヘイリー・ビーバー (Hailey Bieber)、マデリン・ペッチ (Madelaine Petsch)、タイラー・キャメロン (Tyler Cameron) などが出演し、イベントを盛り上げた。

SHEIN は、企業から消費者へのファストファッションのインターネット通信販売を行うプラットフォームで、婦人服、紳士服、子供服、アクセサリ、靴、バッグなどを扱っている。SHEIN は、2020 年 5 月 4 日から 11 日までに、SHEIN Together チャリティ T シャツの収益に 10 万ドルを上乗せして、世界保健機関の「WHO のための新型コロナウイルス感染症連帯対応基金」に寄付した。同基金は、パンデミックの世界的な予防、検出、対応を目的としている。ロスを拠点とするビデオ制作 / コンテンツ制作会社である Station 22 の CEO のノア・クラーク (Noah Clark) 氏は、この 4 時間にわたる配信イベントの制作を託された。E! News の「The Rundown」のホストであるエリン・リム (Erin Lim) とネットセレブのシーラ・オー (Sheela Awe) が司会を務めた同配信には、音楽、美容、ファッションにおける一流タレントが名を連ねた。



「出演者すべてを遠隔でキャプチャー、配信、放送する必要があったので、エキサイティングな制作でしたが、クリエイティブな面と技術的な面でチャレンジが伴うことは当初から認識していました」とクラーク氏は語る。「使用機材に関する入念なリサーチと考察を重ねた結果、この配信を成功させるには、Blackmagic Design の製品を使用するのがベストな選択だという結論に至りました。」



Station 22 は、このバーチャルイベントの制作に、2 台の Pocket Cinema Camera 6K と 2 台の URSA Mini Pro 4.6K G2、4 台の Blackmagic Web Presenter、4 台の Micro Converter、4 台の Video Assist 12G HDR モニター / レコーダー、2 枚の DeckLink Duo 2 キャプチャー・再生カード、1 台の ATEM Television Studio Pro 4K ライブプロダクションスイッチャー、Smart Videohub 12x12 ルーター、UltraStudio 4K キャプチャー・再生機器を使用した。

「放送前に、URSA Mini Pro 4.6K G2 と Pocket Cinema Camera 6K のセットがそれぞれの司会者の自宅に配達されました」と同氏は説明する。「カメラは両方とも、優れた画質が得られ、信頼性が高く、簡単に使えるため、この配信の制作に適していました。万が一、カメラに問題が生じた際に簡単に電話で解決できる必要がありました。カメラのメニューシステムは非常に分かりやすく、使いやすいため、遠隔から簡単にセットアップできました。」

これらのカメラは Blackmagic Web Presenter に接続され、Zoom を起動したラップトップに複数のアングルのフィードが送信された。また、別のアングルとしてウェブカメラが必要になった場合に備えて、司会者の個人のコンピューターでも Zoom を起動して制作が行われた。

Station 22 のスタジオでは、4 台のラップトップそれぞれに 1 回線の Zoom コールが固定され、各ラップトップに Micro Converter HDMI to SDI を接続し、2 方向 SDI 分割出力を得た。この SDI 分割出力の一つは Video Assist 12G HDR に接続され、



#SHEINtogether @erinlim @katyperry

各ビデオソースのISO収録が行われた。

「イベント終了後にハイライトをまとめたビデオを編集する必要があったので、これは非常に重要でした。複数のソースをProResなどの編集しやすいフォーマットでクリーンに同期できたので、見どころをまとめたビデオを数時間以内に仕上げられました。」と同氏。「また、直接外付けSSDドライブに収録できることも大変気に入っています。これにより、長時間の収録が行え、記録的な速さで編集システムにダウンロードできました。」

各Video Assist 12G HDRのSDI出力は、DeckLink Duo 2に送信され、4つのソースすべてがOBSにフィードされた。Micro Converters HDMI to SDIからの2つ目のSDI分割出力は、ATEM Television Studio Pro 4Kにフィードされ、全ソースのモニタリング、大型モニターでのプログラムフィードの確認、必要に応じて追加のスイッチングを実行するために使用された。

「この制作で面白かった点は、遠隔から操作できるテレプロンプターが必要だったことです。司会者がセレブリティの紹介やコロナウイルスやイベントに関する情報などを読み上げるのに使用しました。」と同氏。「これを行うために、別の部屋にスタッフを一人配置し、Blackmagic Web Presenterに接続したテレプロンプター操作のコンピューターをコントロールしました。Blackmagic Web PresenterはZoomに接続され、そこから司会者の自宅に設置したURSA Mini Pro 4.6K G2の前に置いたテレプロンプターに接続されました。このワークフローは極めてシームレスに機能し、司会者の映像と音声をリモートで確認でき、同時にリアルタイムでテレプロンプターをローカルで操作できました。」

「イベントは大成功を収めました。シンプルかつ信頼性の高いシステムを用いて制作したことが成功に繋がったと思います。Blackmagic Designの製品は、これらの面で大変優れています。性能と価格の観点でBlackmagic Designの製品を何年にもわたって愛用していますが、今回のイベントはBlackmagic Designの機器が信頼に値する製品だということを改めて証明しました」と同氏は締めくくった。

12G-SDI製品、ステレオスコピック3D、Ultra HDワークフローなどの独創的な革新を続けている。世界をリードするポストプロダクションエディターやエンジニアにより設立されたBlackmagic Designは、現在アメリカ合衆国、イギリス、日本、シンガポール、そしてオーストラリアにオフィスを構えている。



詳細は www.blackmagicdesign.com/jp

訃報

株式会社音響ハウス 取締役相談役 広岡 淳利 儀
かねてより病氣療養中のところ、6月28日(日)19時15分、
68歳にて永眠いたしました。
ここに生前のご厚誼に深謝し、謹んでご通知申し上げます。

◆エレクトリ：KRK SYSTEMS社のCLASSIC 5を発売

CLASSIC 5は、50WのClass-ABパワーアンプ、5インチのグラスアラミド・コンポジットウーファー、1インチのソフトドームツイーターを組み合わせたニアフィールド・モニタースピーカー。



品番：CL5G3
製品名：CLASSIC 5
オープンプライス：
実勢売価 16,000円
(税抜)
※出荷及び販売は1
本単位。

UPC：816654008398 出荷開始日：2020年7月3日



製品の詳細は

<https://www.electori.co.jp/krk/classic5.html>

◆製品情報

KRK CLASSIC 5は、50WのClass-ABパワーアンプ、5インチのグラスアラミド・コンポジットウーファ、1インチのソフトドームツイーターを組み合わせたニアフィールド・モニタースピーカ。

入力端子はバランスXLR、TRS、アンバランスRCAに対応する。部屋の環境に応じて、それぞれ4段階の調整が可能なHF（高域）およびLF（低域）LEVEL ADJUST、そして-30dBから+6dBレンジのボリュームノブを搭載している。さらにフロントのバスレフポートにより、豊かな低域の再生をサポートする。

主な特長

- ・最適化されたウェーブガイドを備えたソフトドームツイーターは、35kHzまで自然かつ明瞭な高域を提供
- ・軽量のグラスアラミド・コンポジットウーファにより、クリアなミッドレンジとタイトな低域を実現
- ・+2dB KRK Bass Boostによるローエンドの拡張性は、世界中のミュージッククリエイターから高い評価を獲得
- ・HF（高域）およびLF（低域）のレベルコントロールにより、環境や好みに合わせてサウンドを調整
- ・モニターの底面に貼られたフォームパッドにより、アイソレーション効果が得られ明瞭度が向上
- ・アクティブ2ウェイ電子回路により、高ヘッドルームかつ低ノイズの増幅を実現
- ・前面のバスレフポートとレゾナンスフリーのキャビネットにより、音の明瞭度が向上
- ・システムに最適化されたオートリミッターは、予期せぬピークによるスピーカーの損傷を抑制
- ・あらゆる入力端子に対応（バランスXLR、TRS、アンバランスRCA）
- ・30年以上のイノベーション経験を持つモニターメーカーが米国で設計
- ・歪みと不要な色付けを最小限に抑える低共振エンクロージャーカスタムClass-ABアンプ

技術仕様

周波数特性：46Hz - 34.5kHz (+3/-10dB) 最大 SPL: 101dB
アンプ：Class-AB 出力 50W

寸法：188mm x 284mm x 246mm (横 x 高さ x 奥行き)

重量：5.9kg

株式会社エレクトリ プロ営業部 オーディオ課